

美しさの比率

〈要約〉

黄金比で成り立つ関係を、白銀比、青銅比でも成り立つのかを研究したところ、成り立つことが分かった。さらに、この3つの比率の間にある規則性も発見することができた。

研究の目的

昔からある比を改めて詳しく調べ、身の回りの数学の知識を得る。

引用文献

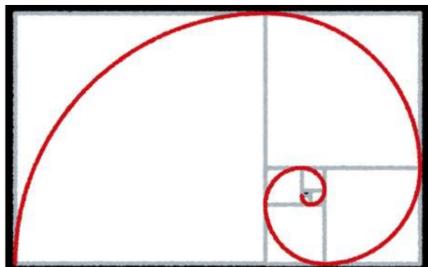
「雪月花の数学」著 桜井進

研究内容

- ① フィボナッチ数列の一般項を簡単な形であらわす
- ② 漸化式の初期値の値による変化
- ③ 黄金比らの規則性を調べて一般化することはできるか

～研究結果～

- ・黄金比は $1 : \frac{1+\sqrt{5}}{2}$ の比のこと
- ・白銀比は $1 : (1 + \sqrt{2})$ の比のこと
- ・青銅比は $1 : \frac{3+\sqrt{13}}{2}$ の比のこと



～フィボナッチ数列の一般項～

1, 2, 3, 5, 8, 13, ...

$$a_1=1, a_2 = 1, a_{n+2}=a_{n+1}+a_n \quad (n=1,2,3\dots)$$

$$a_{n+2}=a_{n+1}+a_n$$

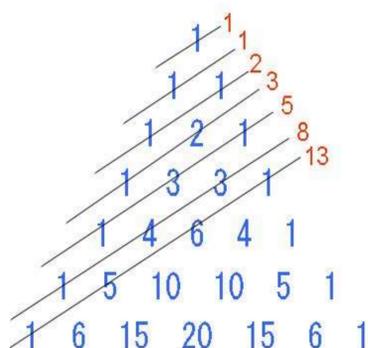
$$x^2 = x + 1$$

$$x^2 - x - 1 = 0$$

$$x = \frac{1 \pm \sqrt{5}}{2}$$

$$a_n = \frac{1}{\sqrt{5}} \left(\left(\frac{1 + \sqrt{5}}{2} \right)^n - \left(\frac{1 - \sqrt{5}}{2} \right)^n \right)$$

～パスカルの三角形～



～フィボナッチ数列の一般化～

$$1 = 0C_0$$

$$1 = 1C_0$$

$$2 = 2C_0 + 1C_1$$

$$3 = 3C_0 + 2C_1$$

$$5 = 4C_0 + 3C_1 + 2C_2$$

$$8 = 5C_0 + 4C_1 + 3C_2$$

$$13 = 6C_0 + 5C_1 + 4C_2 + 3C_3$$

$$(n = 1, 2, 3, \dots)$$

～黄金関数 $f(x)$ と $f'(x)$ で囲まれた面積 S ～

$$x^2 - x - 1 = 0$$

$$f(x) = x^2 - x - 1$$

$$= \left(x - \frac{1}{2}\right)^2 - \frac{5}{4}$$

$$f'(x) = 2x - 1$$

$0 \leq x \leq 3$ の区間では

$$S = \int_0^3 \{-(2x - 1) - (x^2 - x - 1)\} dx$$

$$= \frac{9}{2}$$

～貴金属関数 $f(x)$ と $f'(x)$ で囲まれた面積 S ～

$$f(x) = x^2 - nx - 1$$

$$f'(x) = 2x - n$$

$$x^2 - nx - 1 = 2x - n$$

$$x^2 - nx - 2x - 1 + n = 0$$

$$x = \frac{n+2 \pm \sqrt{(-n-2)^2 - 4(-1+n)}}{2}$$

$$= \frac{n+2 \pm \sqrt{n^2+8}}{2}$$

$$S = \frac{1}{6} \left(\frac{n+2+\sqrt{n^2+8}}{2} - \frac{n-2-\sqrt{n^2+8}}{2} \right)^3$$

$$= \frac{1}{6} \times \left(\frac{2\sqrt{n^2+8}}{2} \right)^3$$

$$= \frac{1}{6} \times \frac{8 \times (n^2+8) \times \sqrt{n^2+8}}{8}$$

$$S = \frac{1}{6} \times (n^2+8) \times \sqrt{n^2+8}$$

～漸化式における収束の速さ～

例として白銀比の数列の漸化式を扱う

$$a_{n+2} = 2a_{n+1} + a_n$$

この式に代入する初期値の違いにより、白銀数がどのように変わるか調べた。